

元気かいた

第21号

(発行・編集)
JR九州労組
退職者連絡会

熊本地区本部

(発行責任者)
山下 和美
(編集責任者)
編集グループ

統一地方選での目的達成

宮崎保、松尾哲也両氏見事当選

人吉市(定数16-20) 9位当選(4期)875票・大牟田市(定数23-30) 3位当選(7期)1,995票

第20回統一地方選挙において退職者連絡会熊本地区本部としては、JR九州労組最重点候補の熊本地本議員団長の宮崎保人吉市議と、同じく副団長の松尾哲也大牟田市議の当選に向けて、両候補への支援の呼びかけと共に、具体的活動としてポスター貼りやポスティングなどを行いました。結果は候補者の頑張り績で当選することが出来ました。

人吉市議会議員

宮崎 保



今回は定数が18名から16名と減になる中に於いて、初出馬と同様に、現場主義を掲げ選挙戦を戦ってまいりました。また、投

票率も前回から約5%、投票総数も2,300人とどちらでも減少する中に於いておかげ様を持ちまして無事4期目に当選することが出来ました。今回の議会では、経済建設委員会委員長、人吉球磨広域行政組合議会運営副委員長に就任させて頂いたためです。7月の豪雨災害からの復興、コロナ禍による景気の衰退、肥薩線の鉄道の復旧再建など、多くの課題が山積しています。課題解決のため、現場に行き現場を見て、現場に意見を聞

くといった「三現場主義を貫くことを、肝に銘じ頑張つてまいります。」

大牟田市議会議員

松尾 哲也



4月の統一地方選挙で7期目の当選を果たさせて頂いた頂きました。今回の選挙は「後援会の解散」「支える会」の立ち上げによる出遅れ、新人候補者の立候補、会派内の候補者への組織の割り振りの減少など、当初から当落線上での厳しい闘いを予想していました。しかし、JR九州労組の皆さまやご支援いただいた多くの皆さまのこれまでに以上にお支えをいただきまして、1995票第3位という立派な成績で当選させていただきました。心から、感謝申し上げます。

選挙中に訴えさせていいただきました、人口減少対策、企業誘致、公共交通の充実、子育て支援など、大牟田市の発展と住み良い街づくりに向けて、取り組んでまいります。今後とも、「大好きな大牟田の明るい未来を創る」のキャッチフレーズを実現するために、全力で邁進します。

新規加入者

- ◇ 橘 孝志
博多新幹線乗務所
- ◇ 米本 治久
熊本支社総務企画課出向
- ◇ 谷口 慎一
八代駅
- ◇ 蓑毛 保彦
熊本駅
- ◇ 山内 隆男
熊本乗務センター(運)
- ◇ 松田 真一
熊本乗務センター(運)
- ◇ 久保寺 泰夫
肥薩おれんじ鉄道
- ◇ 山部 良一
博多車掌区

(敬称略)



好天に恵まれて

6月9日(金)に肥後サ
ンバレーカントリークラ
ブで第13回JR九州労組退
職者連絡会熊本地区本部
親睦ゴルフ大会が、前日
までは雨が降り心配され
ましたが好天に恵まれて
開催されました。

9時10分からの開会式は、
久我正大副会長の進行で
始まり山下和美会長の主
催者挨拶、JR九州労組退
職者連絡会の高田義廣会
長、熊本地本の濱田享二
委員長からの連帯挨拶及
び松尾哲也大牟田市議か
ら選拳戦のお礼があり、
鋤田勝重副会長からルー
ル説明後、9時30分から
参加者36名がアウト・イ
ンに分かれて同時スタ

トしました。
午後からはカートのコ
ス乗り入れもフリーとな
り快適にプレーもでき、
久しぶりの再会となり話
も盛り上がり、みんなゴ
ルフを楽しみました。
表彰式では、鋤田副会
長の友人でプロゴルファ
ー嘉数光倫様、各友誼団
体はじめ本部・地本から数

多くの賞品の提供があり、
参加者全員が賞品を頂き
ました。
次回の開催を期待し帰路
につきました。
ゴルフの成績
優勝 古庄忠広さん
準優勝 高田義広さん
3位 井手美文さん
ベストスコア
82 朝田広之さん



新型コロナウイルス感
染症法の位置づけが「5
類」に移行してから、感
染状況の集計も、ここ数
週間連続前週を上回る患
者数が報告されています。
新型コロナウイルスが収束
された訳でもありません
ので感染対策を行いな
がらの生活が続きます。
さて、私たち「退職者
連絡会」の目的である
「会員相互の親睦と交流」
を図る行動を少しずつで
はありますが進めてきま
した。

の行動を実施しました。
特にJR九州労組組織内
最重点候補の松尾哲也大
牟田市議、宮崎保人吉市
議は厳しい選挙戦であり
ましたが、支援産別や後
援会の皆さんの必死の戦

「会員相互の

親睦と交流」を深める

「会長 山下 和美」

去る四月に行われまし
た「統一地方選挙」につ
いてご協力に感謝いたし
ます。熊本県議会議員選
挙及び市町村議会議員選
挙では、「連合熊本推薦
候補者」の勝利に向けて

いで見事に当選する事が
できました。特筆すべき
ことは、両候補の支援行
動に「退職者連絡会」と
して初めて動員要請を行
い「現退一致」で活動し
た結果当選を勝ち取る事

ができました。
一方では、交運共済生
協から「全労済」への契約
0Pへ全労済への契約
移転に対しては不安もあ
り「移転手続きの学習会
等」を開催し、加入者全
員がスムーズな移転手続
きができるようにお手伝
いしてきました。今日段階
で多くの会員が移転の手
続きが完了しています。
また、今秋には、4年
ぶりに「レクリエーショ
ン」を開催する準備を進
めていきます。決定次第お
知らせします。ご参加
加をお待ちしています。
最後に、私たちの最重
要課題は会員の「410
名」達成です。未加入者
に呼びかけを行っていま
す。皆さまにも未加入者
に「加入の一声」をお願
い致します。

編 後 記

▼「球磨川そのものが守るべき宝」15年前の就任からわずか半年後の蒲島郁夫知事が球磨川支流の川辺川に大型ダムを建設する国の計画を白紙撤回を表明した。ところが20年7月の豪雨災害を受け、やはり新たなダム建設を認められた。知事は正反対の決定で2度にわたって、村の将来を左右した事になる。五木村と相良村は再びダム問題に翻弄されることに。県が取りまとめた両村の地域振興策だ。県が総額100億円を財政支援する方針を示した。「光り輝く五木村にしたい」。6月4日振興計画の地元説明会の蒲島知事と住民の間でこんなやりとりがあったそうだ。「知事を辞めた後は、村に移住し振興の行方を見届けてほしい」。知事は「私ほど村を訪れた知事はいない。移住は私だけで決められない。妻の気持ちも聞かなくては」。ダム計画に翻弄され人口が減っていく村をいかに振興させるのか具体策を提起すべきです。(下)